

事務事業名	地域情報化推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	企画部	地域戦略課	情報政策係	連絡先	236	

計	政策番号	07	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中					
			基本計画①	05	情報化によるやさしいまちづくりの推進	#N/A									
			基本計画②	01	ICT活用戦略	0101	市民生活・教育環境の充実・向上								
			実行計画	01	ICT活用戦略	0101	市民生活・教育環境の充実・向上								
画	予算事業名	地域情報化推進事業費				会計コード	01	款	02	項	01	目	08	事業	04
	事務事業の概要	公立諏訪東京理科大学内の「茅野市情報プラザ」等で、市民活動組織「地域情報化推進ネットワーク」及びNPO法人「みんなでeネット」との公民協働により、地域住民の情報機器利用技術向上、インターネット活用を支援するための講習会を開催することで、大人対象の地域情報教育を推進する。また、市民組織の「高齢者・障害者パソコン広場部会」の活動を支援し、高齢者の情報格差解消を図る。													
	現状と背景	スマートフォンの所有が増加してきていることから、初心者や高齢者向けの新しいツール（スマートフォン等）を利用した情報取得、インターネット利用等の講習会を企画・開催することにより、市民が市から発信する情報を取得、活用する手助けをし、市民の情報格差解消を図っていく必要がある。													
	目的	受益者	市民												
L	対象	対象	同上												
	的意	図	・市民の情報格差をなくし、身近なツールとしてインターネットを利用し、必要な情報を受信・発信することができるようにする。・情報機器の利用方法やセキュリティー対策等の必要性について理解する。スマートフォン等の利用方法と使用時の注意点等について理解する。												
	手段・方法	図	・情報格差解消のため、初心者向け講習会を開催。 ・市民組織による障害者・高齢者向けの学習活動支援。												
A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
			1	広報・ホームページ等による周知	年間広報掲載回数	回		10							
			2	講座の実施時間	年間開催総時間	時間		220							
			3												
	変更履歴														
	O	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
			1	講座受講者の増加	受講者増加率	%	当年度受講者数／前年度受講者数	105							
			2	高齢者の情報格差解消	障害者・高齢者パソコン広場年間参加者数	人	当年度新規受講者数	50							
			変更履歴												

実	施	状	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)		円	1,489,632	1,870,324	2,048,000		
			財源内訳	国庫支出金	円	0	0			
				県支出金	円	0	0			
				地方債	円	0	0			
	その他特定財源	円		187,300	272,250	545,000				
	一般財源	円	1,302,332	1,598,074	1,503,000					
	況	活動指標	年間広報掲載回数	目標	回	10	10	10		
				実績	回	10	10			
			年間開催総時間	目標	時間	217	220	220		
				実績	時間	206	215			
			達成率	%	94.93	97.73	-	-	-	
			-	目標	-					
	実績	-								
	O	成果指標	受講者増加率	目標	%	100	100	105		
実績				%	84	163				
達成率			%	84.00	163.00	-	-	-		
障害者・高齢者パソコン広場年間参加者数			目標	人	45	45	50			
			実績	人	41	27				
達成率			%	91.11	60.00	-	-	-		
備考										

事務事業名	地域情報化推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	企画部	地域戦略課	情報政策係	連絡先	236	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果） （動指） （要標） （因分） （析）		講習会の内容を見直し、スマホ・ネット活用・SNS利用などを盛り込んだが、受講者増につながらなかった。  障害者・高齢者パソコン広場については、一定数の新規参加者が学んでいる。	講習会の内容を見直し、スマホ・ネット活用の講座に加えて小学校先生向けのプログラミング講座を開催。3月は開催できなかったものの全体では受講者増に繋がった。 障害者・高齢者パソコン広場については、一定数の参加者が学んでいる。		
価値（C） （H） （E） （C） （K）	成果	新しい手段で発信する情報を市民に受け取ってもらうために、スマホ・ネット活用・SNS利用などの新しい講座を実施し、全体として約88%の理解度であった。参加者からは、スマホなどの使い方をもっと知りたいのご意見も多かった。	エクセル・ワード・パワーポイントの講座は例年受講者は多い。スマホを利用する方が増えている傾向から、使い方等の講座を2回開催し、受講者も比較的多かった。			
	課題	市民が情報ツールの使い方を学ぶ場を提供することは、特に高齢者を中心とした情報弱者対策として重要と考える。引き続き、講座内容と周知方法について、市民組織・NPOと検討をする必要がある。	市民が情報ツールの使い方を学ぶ場を提供することは、特に高齢者を中心とした情報弱者対策として重要と考える。引き続き、講座内容と周知方法について、市民組織・NPOと検討をする。とともに情報プラザを活用しない講座内容の検討も必要である。			
改革	成果	拡充	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（A） （C） （T）	改善の方向性	初心者対象の、スマホ・タブレット、ネットサービス活用等新しい内容の講座の実施。子ども（親子）対象の、ICT（プログラミングなど）講習の実施。 各講習会内容については、市民組織・NPOと随時検討を進める。 障害者・高齢者パソコン広場については、高齢化が進む中、生涯にわたる学びと仲間づくりの場となっており、内容について検討しながら実施していく。 周知については、広報以外の方法を検討する。	初心者対象の、スマホ・タブレット、ネットサービス活用等新しい内容の講座の実施。子ども（親子）対象の、ICT（プログラミングなど）講習の実施。 各講習会内容については、市民組織・NPOと随時検討を進める。 障害者・高齢者パソコン広場については、高齢化が進む中、生涯にわたる学びと仲間づくりの場となっており、内容について検討しながら実施していく。 周知については、広報以外の方法を検討する。			
	策ひ容					

作成担当者	両角香代	小平昌紀			
最終評価責任者	田中裕之	田中裕之			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			